



牛白血病の農場内感染拡大防止対策に取り組みましょう！ ～ほんの僅かな血液が感染を拡大させる～

牛白血病ウイルス（以下、BLVと略）により引き起こされる牛白血病について、平成27年4月に農林水産省から「牛白血病に関する衛生対策ガイドライン」が策定されました。BLVの感染拡大の原因は、①汚染された注射針、②直腸検査用手袋の連続利用等による人為的な伝播、③感染牛の乳汁を介した伝播、④分娩を介した親子間の伝播、⑤吸血昆虫の媒介及び直接施職による水平伝播です。そこで、このガイドラインで示された様々な衛生対策のうち、まず**農場内感染拡大防止対策**の中で**すでに実行可能な、直腸検査用手袋の連続利用等による人為的な伝播対策**を、「どうしてその対策が必要なのか？」を説明します。

対策の一つに、直腸検査手袋を使い回してはいけなくとよく聞かれます。

では、実際にどのくらいの感染リスクがあるのでしょうか？

感染牛の血液が付着した直腸検査手袋を使い回し、感染率を調査したデータがあります。

接種材料	直腸粘膜の損傷回数	牛の頭数	感染数(率)
感染牛の血液2mlが付着した直腸検査手袋	3	8	8(100%)
	1	2	1(50%)
	0	6	2(33%)

Buxton, B.A.ら、1984

この結果から以下のことがわかります。

- 直検手袋を使い回すことで、BLV感染は起こる。
- 直腸粘膜に損傷が認められなくても、BLV感染は起こる可能性がある。

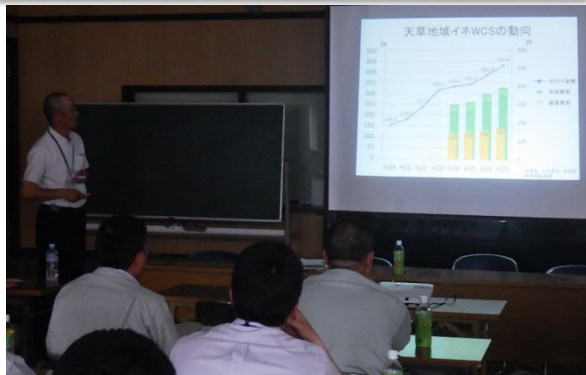
- 1 直腸検査及び人工授精時に使用する**直検手袋の1頭ごとの確実な交換。**
- 2 **注射針の1頭ごとの確実な交換。**
- 3 除角、去勢、削蹄、耳標装着、鼻環装着等の出血を伴う処置への対応
本病に感染していない牛から先に実施し、出血部位に適した止血を行う。
除角器具、去勢器具、削蹄器具、耳標・鼻環の装着器等は、**使用后1頭ごとに必ず洗浄・消毒を行ってから次の牛に使用する。**また、複数頭の連続作業を行う場合は、これらの作業器具は2つ以上用意する。
- 4 必要性を理解した上で対策を行い、農場内での感染を未然に防ぎましょう。
- 5 繁殖牛飼養農家においては、本病の抗体検査の実施後、できるところから対策に取り組みましょう。何もしなければ、抗体検査を実施した意味がなくなります。



平成28年度家畜衛生事業推進会議を開催しました！

去る5月24日（火）、天草畜産農業協同組合の会議室にて、開催しました。

各市町や畜産団体等の26名が参集し、家畜伝染病の発生状況（鳥インフルエンザ、口蹄疫、豚流行性下痢など）、当所の平成27年度の事業実績や平成28年度の事業計画、飼養衛生管理基準の遵守状況などについて説明しました。



主な概要は以下のとおりです。

- 総務省による家畜伝染病対策に関する行政評価・監視の結果に基づく勧告による、**長期末改善の飼養衛生管理基準項目の遵守徹底等**。
- **牛白血病**について、更なる感染拡大防止のための**衛生対策ガイドライン**策定に基づく、**農場内感染拡大防止対策及び清浄化に向けた取組**。
- **牛ウイルス性異常産**について、天草地域での発生はまだないものの、**アカバネ病ウイルス**の動きが確認されたことから、**異常産ワクチン接種の重要性**。
- 平成27年度肉用牛繁殖検診成績をもとに、1年1産を目標とした**生産性向上のために分娩から初回AIまでの日数及び未経産牛の初回AI月齢の短縮、分娩後40日以上未授精牛（発情兆候の不明牛）の受診頭数の増加の必要性**など。
- 平成27年度に熊本県内の酪農家で**牛トレーサビリティ法違反（虚偽の届出等）**に対する催告・指導が3件あったので、牛の飼養者に対する**再発防止の徹底**。
- 天草地域繁殖牛における**稲発酵粗飼料（WCS）給与の現状**について、適切な給与量など正しい情報を把握せず、**過剰給与している傾向**があり、配合飼料を含めた**給与量の調整・工夫の必要性**。

多くの畜産担当の方に出席していただき、関係者の皆様と活発な意見交換が出来ました。今年度の事業推進、ひいては天草地域における畜産業のさらなる発展のため、御理解と御協力をよろしくお願いいたします。

海外悪性伝染病発生状況

病名	発生地	発生日	畜種	型
口蹄疫	中国	5月4日	牛	O型
高病原性 鳥インフルエンザ	台湾	4月19日～4月20日	がちょう・地鶏	H5N8
		4月29日	鶏	H5N2
	ベトナム	4月23日	家さん	H5N1

6月13日現在

通報

家畜の異常を発見された場合はご連絡ください。
天草家畜保健衛生所 電話番号0969-22-3668

毎月20日は「くまもと家畜防疫の日」

